

Title	I 総合研究所の設置理念と組織
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.59, 2015.3 : 21-30
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5471
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

I 総合研究所の設置理念と組織

(1) 総合研究所設置の理念と沿革

聖学院大学総合研究所は、聖学院大学創設時に法人理事会に設けられた「聖学院大学の理念」（十ヶ条）を検討する「理念検討委員会」を前身に1988年4月の大学設置とともに、大学付置の研究機関として設立された。その目的は、各学問領域の諸問題を学問的に研究・深化させ、独自の発展を遂げている諸学問間の対話を深め、総合することである。また幼稚園から大学、大学院の教育のあり方を研究する法人のシンクタンクの役割も担うことである。このような理念のもと、1) 研究センター、2) 研究グループを設置し、本報告の「II 研究活動と研究成果公開」にあるように、共同研究、講演会、シンポジウム、セミナー等を実施している。また、3) 補助活動（付随）事業を実施している。さらに法人の中でも、特に4) 大学院の研究部門に位置づけられ、大学院の研究科増設とともに、一部研究センター（一部研究室）を設置して、研究を進めてきた。

1) 研究分野

今日の学問的状况の中で2013年度より研究分野が整理・統合され、現在は「グローバリゼーション文化総合研究」、「死生学・人間福祉・カウンセリング研究」、「その他研究」の3研究分野となり、計11の研究グループを擁している。

2) 研究室・研究グループ

2014年度の現状は以下のとおりである。

「グローバリゼーション文化総合研究分野」では、ラインホールド・ニールバー研究センター内に「人文科学研究（室）」を設置し研究を行っている。「死

生学・人間福祉・カウンセリング研究分野」では、カウンセリング研究センター内に「臨床死生学研究」、「牧会心理研究」、「スピリチュアルケア研究(室)」、「カウンセリング研究」を設置、人間福祉学研究として「福祉のこころ研究」、児童学研究として「〈児童〉における「総合人間学」の試み研究」、こども心理学研究として「【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト 子どもの育ちと絵本研究」を行っている。「その他研究」の分野としては、社会倫理研究として「東日本大震災神学研究（キリスト教社会倫理研究）」、神学学術研究として「組織神学研究」、基礎総合教育研究として「アクティブ・ラーニング研究」の11の研究が行われている。

〈これまでの経緯〉

1988年度：大学が政治経済学部の一学部一学科であり、「政治経済研究センター」「科学と教育研究センター」「語学研究センター」「日本・アングロアメリカ研究センター」「キリスト教と文化研究センター」の5つの研究センターで総合研究所が運営開始された。

1994年度：「日本・アングロアメリカ研究センター」が設けられたことに伴い、「日本研究室」と「英米研究室」が設置された。

1997年度：「政治経済研究センター」のもとに、地方分権、まちづくりを研究する「現代都市研究室」が設置された。

1998年度：「聖学院大学の理念」にあるプロテスタント・キリスト教神学を研究する「組織神学研究所（後にセンター）」を設立した。

2002年度：韓国の翰林大学校日本学研究所と共同で「日韓現代史研究センター」を設立し、朝鮮半島の民衆がどのような経験をし、戦後の国家像をどのように描いていたのかを調査・研究。また日韓現代史に関する重要資料の収集にあたった。

2003年度：「カウンセリング研究センター」を設置し、キリスト教カウンセリングの事例研究を開始した。

2004年度：児童学研究として「〈児童〉における「総合人間学」の試み研究」が開始された。

2005年度：元日本銀行総裁であられた速水優氏を全学教授に迎え、「国際金融研究室」を設置し、国際的な金融・経済、そして政治の動向を研究する活動をはじめた。（この研究室は速水教授の逝去に伴い、2009年に「速水記念国際

金融研究センター」に拡大された。)

2006年度：研究センターの改編とともに、各研究センターに研究室を設置。教育研究センターの中に「科学教育研究室」、「キリスト教教育研究室」、「語学教育研究室」を、組織神学研究センターの中に「人間学研究室」「ドイツ神学研究室」、「英米神学研究室」を設置。また日本・アメリカ・ヨーロッパ研究センターには「ピューリタニズム研究室」(ピューリタン・アーカイヴでピュータン研究の文献資料を収集)、「アメリカ研究室」、「日本研究室」、「EU研究室」「英米文学研究室」が設けられた。政治経済研究センター「現代都市研究室」の名称を「地方自治研究室」に変更した。

2007年度：「教育研究センター」「組織神学研究センター」「日本・アメリカ・ヨーロッパ研究センター」「日韓現代史研究センター」「政治経済研究センター」「人間福祉学研究センター」「カウンセリング研究センター」の7つの研究センターに整理・統合された。

2008年度：カウンセリング研究センターに「スピリチュアルケア研究室」が設置された。

2009年度：「国際金融研究室」を発展的に解消し、速水優元日本銀行総裁を記念する「速水記念国際金融研究センター」を設置。2009年10月には、これまで断続的に研究されてきたラインホルド・ニーバーの神学と思想を現代社会における意義に焦点を合わせて研究するために「ラインホルド・ニーバー研究センター」が設置された。

2012年度：こども心理学科新設に伴い、こども心理学研究として「【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト 子どもの育ちと絵本研究」や、昨今のアクティブ・ラーニングの必要性をいち早く取り込み、基礎総合教育研究として「アクティブ・ラーニング研究」が開始された。

2013年度：段階的に研究室名称からグループ名称に変更し、研究グループの整理が行われた。

2014年度：現在で室名称が残っているのは、2013年度をもって科学研究費補助金によるラインホルド・ニーバー研究が終了したことに伴い、2014年度に名称変更した「人文科学研究室」と、既存の「スピリチュアルケア研究室」のみとなった。その他研究は室名称を持たず研究グループとし、現在の研究組織体制となった。(「2014年度聖学院大学総合研究所研究組織図」, p.27参照)

これらの研究センター、研究室、研究グループでは、研究者主体によるアカデミックな研究会を主に、一般にも開かれた研究講演会、シンポジウム、セミナー等の開催、共同研究プロジェクトの推進、資料の収集と蓄積などにあたっている。

3) 補助活動事業

2014年度の現状は以下のとおりである。

カウンセリング研究センターにおいて「聖学院グリーンケア・ルーム」「牧会電話相談」でのカウンセリング事業を、人間福祉学研究センター内の「人間福祉スーパービジョンセンター」では、スーパービジョン活動を実施し、スーパーバイザー支援にも貢献している。その他、駒込キャンパスの幼稚園児・小学生対象に英語教室「聖学院キッズ・イングリッシュ」を開設している。「聖学院大学出版会」においては、学術書を中心とした出版活動が行われている。

〈これまでの経緯〉

総合研究所は設立当初から「語学研修所」(Seigakuin Language Institute)を設立するなど、教育を補助する補助教育事業を展開している。

1991年には、研究成果を出版物で公開するために、「聖学院大学出版会」が設置された。

1994年に自治体職員の研修講座「自治体リーダー養成講座」(年1回集中講座)が開始され、10回を経た段階で評価と見直しがされた。そして2004年度から地方自治研究室のもとに、地方議会議員、また地方自治体職員の研修講座である「聖学院ポリシー・カレッジ」が設けられた。この講座は、2010年度で終了となった。

2004年度にはカウンセリング研究センターに心理相談「グリーンケア・ルーム」を設置した。2008年度にカウンセリング研究センターで「牧会支援に望むもの——牧会者と信徒のアンケート調査」を実施したが、牧会者が孤立し、相談する場所もないという現状があることがわかった。そこで2009年度から「牧会電話相談」(無料)をはじめた。また「牧会サマーセミナー」を開設し、牧会者の研修支援プログラムを提供することにした。

2008年度には人間福祉学研究センターのもとに「人間福祉スーパービジョ

ンセンター」を設置し、福祉の現場で働く専門職の方々をスーパーバイズするプログラムとして、「個別」、「グループ」、「ピア」、の各スーパービジョンを実施している。

4) 総合研究所と大学院

1996年には聖学院大学大学院「政治政策学研究科」が設置されたが、総合研究所はその当時は研究部門に位置づけられ、政治政策学研究科の研究活動を推進する役割を果たしてきた。いくつか例を挙げれば、「政治経済研究センター」では、大学院政治政策学研究科と共同で、埼玉県重点施策を政策企画・実施・評価の観点から研究する科目として「埼玉地域政策研究」を開講している。講師は埼玉県の中堅幹部である。また2004年度から埼玉県の自治体職員、地方議会議員を対象にした「聖学院ポリシー・カレッジ」を大学院講座（「先端政策研究」の科目名）として開催した。また、税理士志望の学生が多いため、「地方自治と税制」などの講演会、シンポジウムを共催した。

1999年度に「アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科」が開設されたが、「日本・アメリカ・ヨーロッパ研究センター」では、この研究科と共同で、海外からF.W. グラフ、Ch. シュヴェーベルなど著名な学者を招聘し、大学院授業・研究集会を開催している。また「言語文化研究」「ヨーロッパ統合の理念と実態研究」などが実施された。

2006年度には「人間福祉学研究科」が設置されたのに対応して、「人間福祉学研究センター」を立ち上げ、「福祉のこころ研究」「プライマリーケア政策研究」「人間福祉スーパービジョンセンター」の研究活動を進めた。

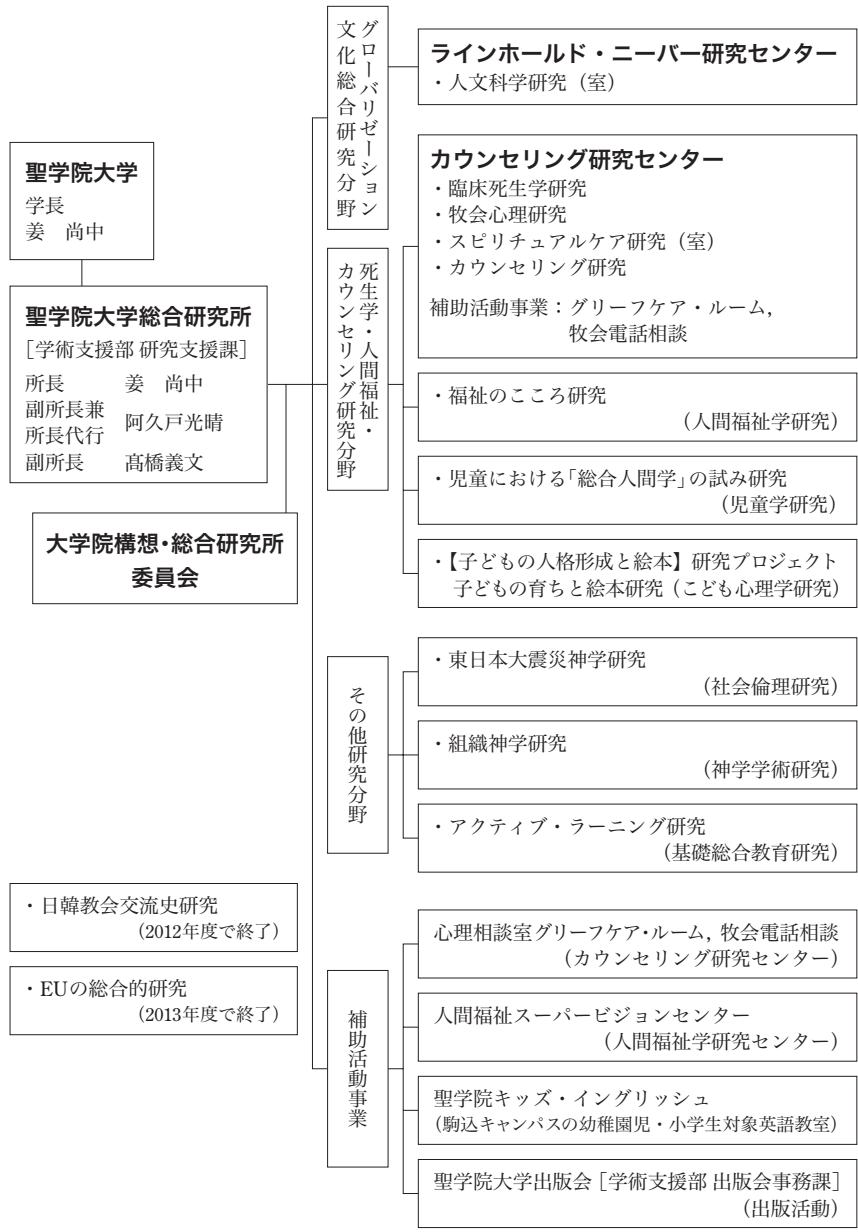
運営組織としては、大学院と総合研究所が教育と研究の両輪を担う一体の組織であるために、2000年度に大学院・総合研究所事務部が設置された。2008年度に大学学術支援部（大学院、研究支援課、図書館司書課）に事務組織の改編がなされ、大学院事務は学務部教務課に所属、総合研究所事務は学術支援部研究支援課が担当することになり、事務組織は別機関となった。2012年からは、研究支援課内にあった出版会部門を、新設の出版会事務課が担うようになった。この間、研究グループの新設、廃合等があり、2011年度と2014年度に総合研究所の活動を大きく見直した。

2014年度に法人主導のもと、研究組織、委員会組織を改めた。現在、総合

研究所と大学院は別組織であるが、「聖学院大学の教員は、全員総合研究所の所員となる（総合研究所規程第7条）」ことと、過渡期であることから、2014年度は総合研究所委員会と大学院構想委員会が「大学院構想・総合研究所委員会」（合同委員会）として運営された。

- 1) 研究活動の分野整理・明確化（2014年度より）
 - ① グローバリゼーション文化総合研究分野
 - ② 死生学・人間福祉・カウンセリング研究分野
 - ③ その他研究分野
- 2) 補助活動（付随）事業の明確化
 - ① 「聖学院グリーンケア・ルーム」「牧会電話相談」：カウンセリング研究センター
 - ② 「人間福祉スーパービジョンセンター」：人間福祉学研究センター
 - ③ 「聖学院キッズ・イングリッシュ」：研究支援課
 - ④ 「聖学院大学出版会」：出版会事務課（2012年度より）
- 3) 総合研究所委員会を大学院構想委員会と統合し「大学院構想・総合研究所委員会」として運営（2014年度）。
- 4) 聖学院大学の教員は、全員総合研究所の所員となる（総合研究所規定第7条）。
- 5) 全法人の緊縮財政方針に対応し、活動を精選し、予算も無駄のないよう計画。
- 6) 学部、大学院の研究部門としての位置づけを明確にし、多くの教員、また大学院学生、学部学生の参加するプログラムをめざす。
- 7) 研究会とは、研究活動・成果の発表の場であり、アカデミックな研究者による発題・質疑応答を基本とする。また、その場合、非営利でなければならない。研究会は2時間以内とし、原則飲食提供はなしとする。その他、研究講演会や研究シンポジウム等は、採算見合いを十二分に考慮して開催することを原則としている。

(2) 聖学院大学総合研究所 研究組織図 (2014年度)



総合研究所委員（2014年度大学院構想・総合研究所委員）

所 長 姜 尚中（学長，2014年4月～現在）

副所長兼所長代行 阿久戸光晴（理事長，院長，政治経済学部長兼政治政策学
研究科長，学生総合支援センター所長，IR室長，出版
会会長 [政策研]，1995年4月～現在（前副所長））

副所長 高橋 義文（人文科学研究室長 [総研]，2011年4月～現在（前所
長））

委 員 大高 研道（学長補佐（学長室），政治経済学科 [政策研]，2014年
4月～現在）

委 員 柴田 武男（政治経済学科 [政策研]，2014年4月～現在）

委 員 平 修久（政治経済学科長 [政策研]，2014年4月～現在）

委 員 高橋 愛子（副学長，学長補佐（学長室） [政策研]，2014年4月～
現在）

委 員 片柳 榮一（人文学部 [文化研]，2014年4月～現在）

委 員 清水 正之（副学長，人文学部長兼アメリカ・ヨーロッパ文化学研
究科長 [文化研]，2012年4月～現在）

委 員 東島 誠（日本文化学科 [文化研]，2014年4月～現在）

委 員 藤原 淳賀（基礎総合教育部 [文化研]，2014年4月～現在）

委 員 村松 晋（日本文化学科 [文化研]，2014年4月～現在）

委 員 牛津 信忠（人間福祉学部長兼人間福祉学研究科長 [福祉研]，
2010年4月～現在）

委 員 窪寺 俊之（こども心理学科長 [福祉研]，2012年4月～現在）

委 員 古谷野 亘（人間福祉学科長 [福祉研]，2014年4月～現在）

委 員 田澤 薫（児童副学科長兼学科長代行 [福祉研]，2014年4月～
現在）

委 員 藤掛 明（こども心理学科 [福祉研]，2014年4月～現在）

所 員

聖学院大学の教員は，全員総合研究所の所員となる（総合研究所規程第7条）。

研究所教員（担当）

- 講師 森田美千代（大学院，学部，2010年4月～現在）
- 講師 ブライアン・バード（小学校英語，Seigakuin-Kids-English，2003年4月～現在）
- 講師 藤原真知子（小学校英語，Seigakuin-Kids-English，2003年4月～現在）
- 講師 ジャスティン・ナイティンゲール（小学校英語，Seigakuin-Kids-English，2007年4月～現在）
- 委託講師 西嶋小百合（Seigakuin-Kids-English，2012年4月～現在）
- 委託講師 山根真由美（Seigakuin-Kids-English，2012年4月～現在）
- 客員教授 洛 雲海（日韓現代史研究，長老会神学大学校〔在外〕，2012年4月～現在）
- 客員教授 小林 良彰（地方自治研究，大学院，2000年4月～現在）
- 客員准教授 デイーン・サザデン（聖学院中学校高等学校，2001年4月～現在）

特任研究員（ポスト・ドクター）

- PD 島田 桂子（英米文学研究，2012年4月～現在）

Research Assistant: RA

- 越智 裕子（2009年4月1日～2015年3月31日）
- 斎藤 薫（2007年4月1日～2013年3月31日）
- 兼松 誠（2010年4月1日～2012年3月31日）
- 松田寿美子（2010年4月1日～2013年9月18日）
- 出野由紀子（2011年4月1日～2015年3月31日）
- 関 智征（2012年4月1日～2015年3月31日）
- 徳田 信（2012年4月1日～2013年4月30日）
- 五十嵐成見（2012年4月1日～現在）
- 堺 正貴（2012年4月1日～現在）
- 蘭 暁栄（2012年4月1日～現在）

特別研究員

- 森川 剛光（ルツェルン大学からの特別研究員，2007年4月～現在）

研究技術者

堀 肇 (カウンセリング研究, 牧会電話相談, 2009年4月～現在)

小淵 朝子 (カウンセリング研究, 心理相談室グリーンケア・ルーム, 2013年1月～現在)

名誉教授

柏木 昭 (2010年4月, 人間福祉スーパービジョンセンター顧問, 2010年4月～現在)

金子 晴勇 (2011年4月)

康 仁徳 (2013年4月)

ラインホールド・ニーバー研究センター 名誉センター長

武田 清子 (2009年10月)